

令和 7 年 9 月 17 日

高校生世代に向けた居場所アンケート調査結果報告書

本調査は、原村の高校生世代に対して、居場所の必要性や居場所に対する要望、地域の大人との関わりについてのニーズを把握し、今後村としての支援体制の検討資料を得ることを目的として実施した。

【調査の概要】

実施期間：令和 7 年 8 月 1 日～8 月 31 日

実施対象者：原村在住の高校生世代

対象者数：208 人

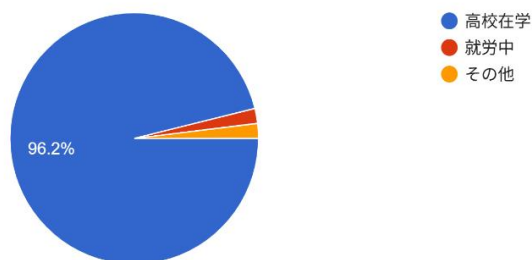
回答者数：52 人（回答率 25%）

実施方法：原村高等学校等就学応援品支給事業配布の際に、高校生世代の住民へアンケート案内を直接配布（171 人）、未申請者に対しては郵送を行い、インターネット上でのフォームにて回答を得た。

【調査結果】

1. 社会的属性

あなたの立場を教えてください。
52 件の回答

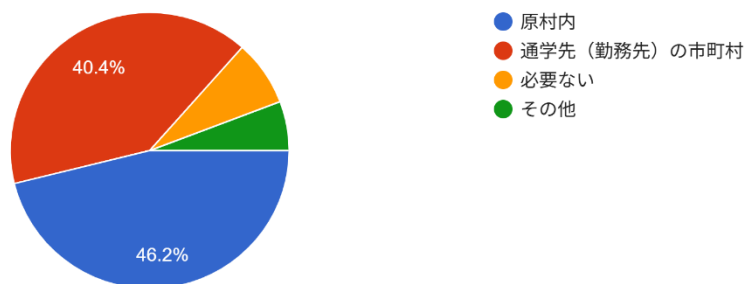


・職業：高校在学 50 人（96.2%）、勤労中 1 人（1.9%）、その他 1 人（1.9%）

2. 「居場所」の所在地について

高校生世代の若者が放課後や休日に安心して過ごせる「居場所」がどこにあればいいと思いますか？

52 件の回答

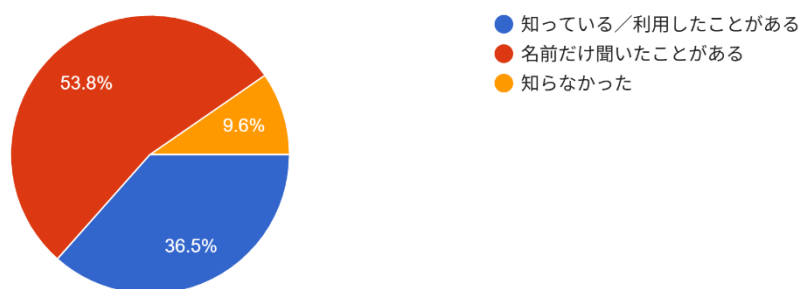


- ・ 原村内：24 人（46.2%）
- ・ 通学先（勤務先）の市町村：21 人（40.4%）
- ・ 必要ない：4 人（7.7%）

3. 子ども・子育て支援センター「はらっぱ」の利用について

現在、原村にある子ども・子育て支援センター「はらっぱ」のことを知っていますか？

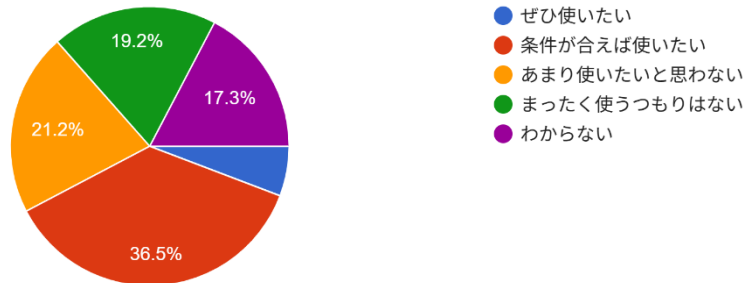
52 件の回答



- ・ 名前だけ聞いたことがある：28 人（53.8%）
- ・ 知っている/利用したことがある：19 人（36.5%）
- ・ 知らなかった：5 人（9.6%）

「はらっぱ」を今後、居場所として使ってみたいと思いますか？（開館時間 9:30～18:15 日祝日を除く）

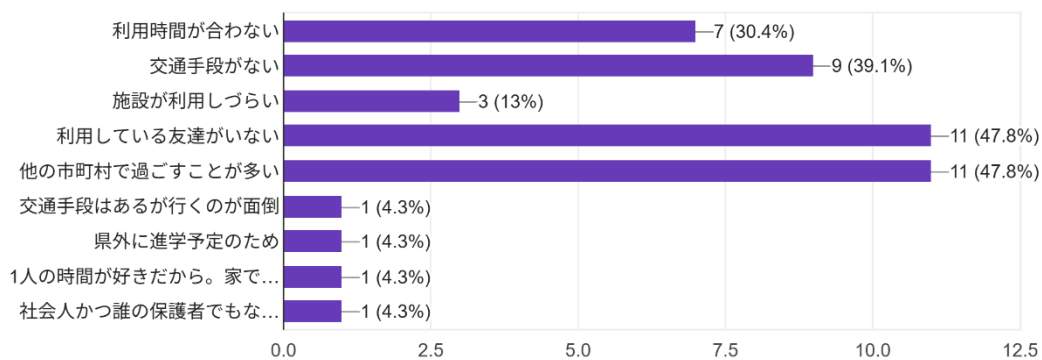
52 件の回答



- ・条件が合えば使いたい：19 人（36.5%）
- ・あまり使いたくないと思わない：11 人（21.2%）
- ・まったく使うつもりはない：10 人（19.2%）
- ・わからない：9 人（17.3%）
- ・ぜひ使いたい：3 人（5.8%）

「あまり使いたくない」または「まったく使うつもりはない」と答えた方は理由を教えてください（複数回答可）

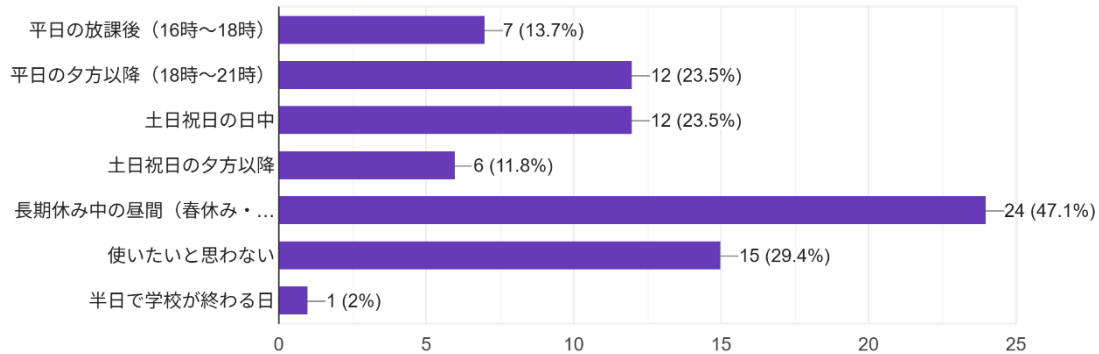
23 件の回答



- ・利用している友達がいない：11 人（47.8%）
- ・他の市町村で過ごすことが多い：11 人（47.8%）
- ・交通手段がない：9 人（39.1%）
- ・利用時間が合わない：7 人（30.4%）
- ・施設が利用しづらい：3 人（13%）

あなたが「はらっぱ」を使ってみたいと感じる時間帯はいつですか？（複数回答可）

51 件の回答

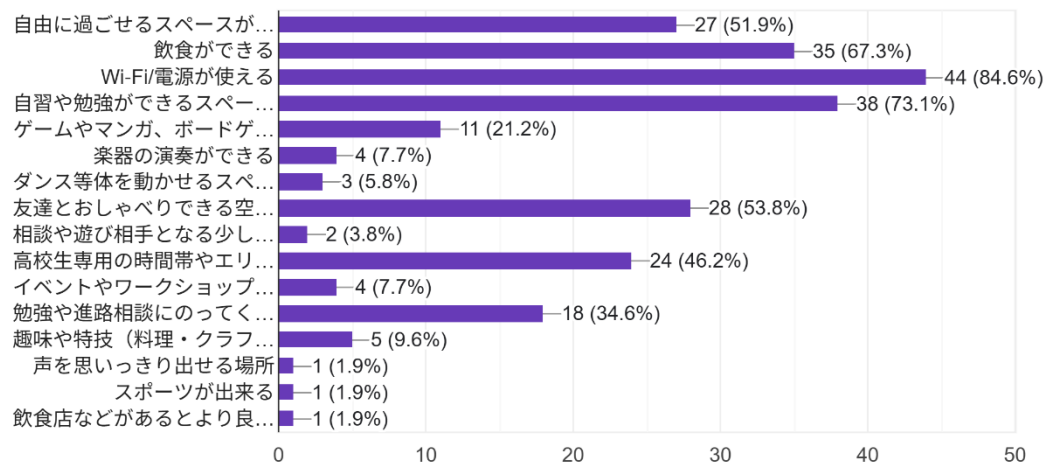


- ・長期休みの昼間：24 人（47.1%）
- ・使いたいと思わない：15 人（29.4%）
- ・平日の夕方以降（18 時～21 時）：12 人（23.5%）
- ・土日祝の日中：12 人（23.5%）
- ・平日の放課後（16 時～18 時）：7 人（13.7%）
- ・土日祝の夕方以降：6 人（11.8%）

4. 「はらっぱ」に求める機能やサポートについて

高校生世代の居場所（はらっぱを含む）がより居心地のよい居場所になるためには、どのような機能やサポートが必要だと思いますか？（複数回答可）

52 件の回答

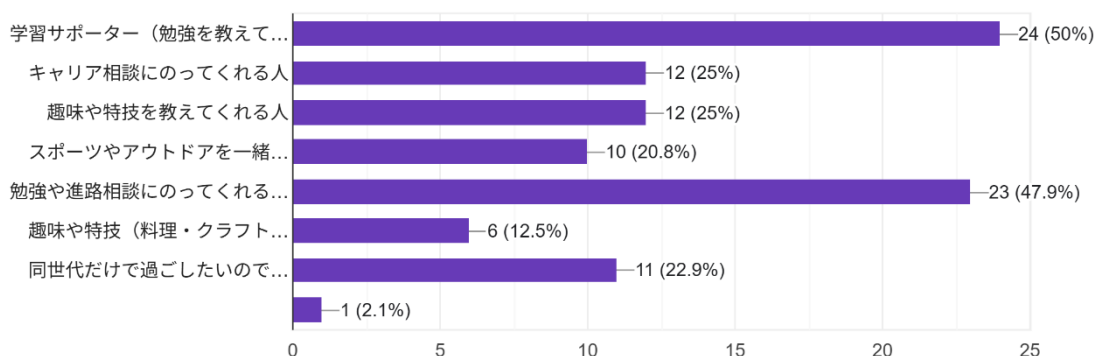


- ・Wi-Fi/電源が使える：44人（84.6％）
- ・自習や勉強ができるスペースがある：38人（73.1％）
- ・飲食ができる：35人（67.3％）
- ・友達とおしゃべりできる空間がある：28人（53.8％）
- ・自由に過ごせるスペースがある：27人（51.9％）
- ・高校生専用の時間帯やエリアがある：24人（46.2％）
- ・勉強や進路相談にのってくれる大学生・社会人がいる：18人（34.6％）
- ・ゲームやマンガ、ボードゲームがある：11人（21.2％）
- ・楽器の演奏ができる：4人（7.7％）
- ・イベントやワークショップが開かれる：4人（7.7％）
- ・ダンス等体を動かせる：3人（5.8％）
- ・相談や遊び相手となる少し年上のスタッフがいる：2人（3.8％）

5. 居場所における「地域の大人」とのかかわりについて

居場所にどんな「地域の大人」がいてくれたらいいと思いますか？（複数回答可）

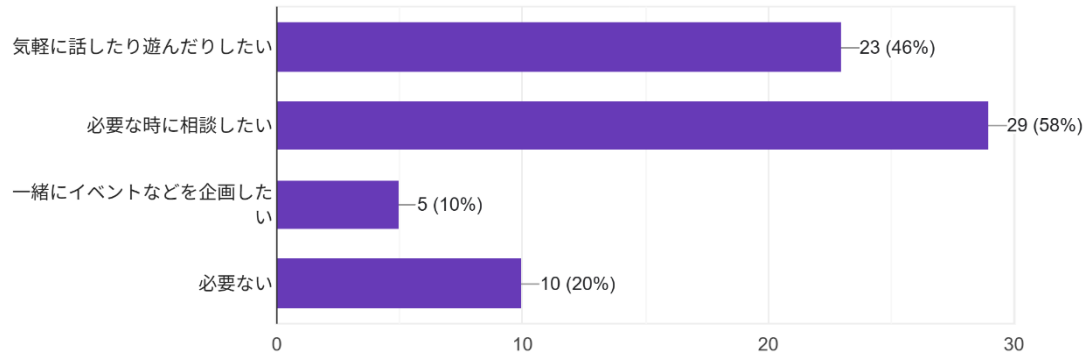
48件の回答



- ・学習サポーター：24人（50％）
- ・勉強や進路相談にのってくれる大学生・社会人：23人（47.9％）
- ・キャリア相談にのってくれる人：12人（25％）
- ・趣味や特技を教えてくれる人：12人（25％）
- ・同世代だけで過ごしたいので必要ない：11人（22.9％）

「地域の大人」とどのような形でかかわりたいと思いますか？（複数回答可）

50 件の回答



- ・ 必要な時に相談したい：29 人（58%）
- ・ 気軽に話したり遊んだりしたい：23 人（46%）
- ・ 必要ない：10 人（20%）
- ・ 一緒にイベントなどを企画したい：5 人（10%）

6. 高校生世代にとって原村にどのような「居場所」があるとよいと思いますか？（自由記述）

- ・ 誰でも気軽に行くことができ、地域の人たちと触れ合えるところ
- ・ 進路を悩む時期なので学校だけではなく真剣に向き合える場所があれば助かる
- ・ チェーン店でいいので飲食店がほしい（スタバとか）
- ・ 軽食を注文できたり、静かに勉強できるようなスペースがある、同年代の人が集まりやすいような場所があるといいと思う
- ・ 集まって勉強したり話したりできるカフェや飲食店など
- ・ 長期休暇中の昼間は家に一人になるのでその時間帯に利用できる場所
- ・ 交通の便が良く、友だちとかかわりを持てる場所
- ・ 原山周辺に勉強できる飲食とかのスペース
- ・ 小中学生に勉強を教えたり自分の受験勉強ができる場所
- ・ 近い世代の人たちと交流できる場所
- ・ 困ったときに駆け込める場所
- ・ くつろげる場所 リラックスできる場所 酸素カプセル
- ・ 楽しく過ごせる場所
- ・ 高校生が気軽に勉強したりリラックスできるところ
- ・ ペンション、原山、農場など役場付近から離れた場所で暮らしている人も気軽に行ける自習室など。また小学生くらいの子も安心して過ごせる場所

- ・気軽に入れる飲食店（他の市町村にあるような店）
- ・必要としていない
- ・友達と過ごせる場所
- ・集中して勉強できるところ。仕切りなどで区切られている机があるところ
- ・不登校とか悩みとか辛いことを経験している学生がいるならそういう人やその家族のことを理解し合える思いやれる環境を作って、そういう人たちが原村が安心できる居場所だと感じられるようにするとよいと思う。
- ・安心できる場所
- ・集まれて飲食が可能な屋根のある場所
- ・いろんな年代の人と交流できる場所、勉強に集中できて教えてくれる人がいる場所

7.「はらっぱ」を含めた居場所づくりに関してアイデア、ご意見、提案があれば書いてください（自由記述）

- ・「はらっぱ」は小学生しかいなくて行くの気まずい
- ・原村に住んでいる高校生が日にちに関係なく利用できるようにしてほしい
- ・イオンモールみたいなのが欲しい
- ・家から遠くて利用しづらい
- ・特になし

【調査結果まとめ・考察】

- ・原村高等学校等就学応援品支給事業受け渡しの際に、対象者へ直接手渡しにてアンケート依頼ができたことは有効であり、25%の回答率が得られたことはよかった。
- ・「居場所」のあるべき所在地については村内が最も多く（46.2%）次いで通学先（勤務先）の市町村（40.4%）となっており、大きく二分していると見られる
- ・「はらっぱ」については名前だけは知っているという答えが半数以上を占め、利用したことのある者は3分の1にとどまる。小学校時代にはなかった施設ということもあり、認知度の低さが感じられる。認知度は今後上がっていくと予想される
- ・「はらっぱ」の利用については「条件が合えば使いたい」という意見が3分の1強あるが、同時に「あまり使いたくない」「まったく使うつもりはない」の意見を合わせると約4割に上ることがわかる。
- ・「はらっぱ」の利用に結びつかない主な理由としては「他市町村で過ごすことが多い」という高校生ならではの理由も大きい、「利用時間が合わない」（30.4%）「交通手段がない」（39.1%）「施設が利用しづらい」（13%）など、運営側の課題も挙げられている
- ・「はらっぱ」を利用してみたいと感じる時間帯は「長期休み中の昼間」が最も多く（47.1%）次いで「平日の18時～21時」「土日祝日の日中」（各23.5%）となっている。開館日や開

館時間の変更によっては高校生の利用増加が見込まれると考えられる

・「はらっぱ」に求められる機能やサポートについて「自習や勉強ができる」「飲食ができる」「友達とおしゃべりができる」が多くあげられていると同時に「高校生専用の時間帯やエリアがある」ことが求められている。また、勉強や進路を相談できる地域の大人の存在も求められていることがわかる

高校生世代が「居場所」に求めるのは学校、家庭以外の第3の場所であり、そこには地域の大人の存在も不可欠であると思われます。勉強や進路など悩みの多い世代が自由に集い地域と交流できる場をどう作り上げていけるかが今後の課題だと思われます。

また、東西に長く移動の大変な原村の地域性から原山地域での居場所を求める声も上がっています。

以上